

平成 24 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

3 微小粒子状物質の動態と発生源寄与の解明

[総合評価とコメント]

- PM2.5 の問題は、最近の中国からの飛来も含め、非常に社会的関心が高まっていることから、県内における実態把握と発生源解析を主たる内容とする本課題は、行政的にも学術的にも有用性の高い課題といえる。

既に 23 年度分のデータを用いた予備解析結果が出てきており、いくつかの重要な知見が得られているなど、順調な進捗がみられる。

今後成分分析データに基づく発生源解析や、気象と濃度の関連性の詳細な解析が進むことによって、動態や発生源に関する多くの知見が得られるものと期待される。

24 年度新設の測定局のデータが加わることによって、どのような展開が期待できるのか、あるいはどのような新たな目標設定がなされるのかが、さらに国環研との共同研究ではどのような目標が設定されるのかについて、早期に明確にされることが望まれる。
- PM2.5 は最近では中国での大気汚染に関する報道などから住民の関心が高い物質となっている。また、今後、わが国でもこれによる大気汚染の進行や健康被害への懸念もある。その意味で、その実態を把握し、発生源やその寄与を推定することは、汚染予防対策を考える上で重要である。

本研究では県内ならびに広域的に連携した形で推進する体制をとっている。これは広域的に移動・拡散しやすい特徴を持つ大気汚染物質の実態把握等を行う上でとても有効である。貴センターは神奈川県民のニーズに合った調査研究を実施することが第一の使命ではあるが、この研究では連携する他の自治体等に対する責任も負うことになる。その意味で貴センターの果たす役割は大きいと思うので、着実に研究が進められることを期待する。

まだ、研究の一年目であるため解析の対象に出来るデータが限られているが、今後、データの蓄積と併せて発生源の寄与や発生要因の解明が進められるものと期待する。

蛇足であるが、これは PM2.5 の問題が一般住民に未だ十分に知られていない時期に計画されたテーマであり、最近、たまたま注目され重要度が増したものである。問題が発生してから対症療法的に取り組むのもひとつではあるが、普段からの地道な調査研究が問題発生時に貴重な情報を提供してくれるのだということであらためて感じた。
- H23 年度の結果の予備的な解析は、今後の成果に期待を持たせるものであった。しかし、組成分析は時間分解能が 1 日になるなど、クリアな結果を出すにはまだ困難が予想される。そこで、できるだけ多くの測定と慎重な解析が重要だと考える。

神奈川の場合に応じた発生源データの取得も考えていただけると良い。
- 微小粒子状物質は中国大陸からの影響も懸念される中、センターの研究課題として緊急性の高い重要なテーマです。県内の観測局においての経年調査の結果、主要構成成分ごとの季節変化、高濃度発生時期と日内変動の傾向を把握することができたことは高く評価できると考えます。

横浜市、川崎市等と連携して、県内における発生源の特定を進め、発生源対策等の行政施策に反映されることが期待されます。

同時に、広域の自治体との連携により、大陸からの影響の把握も期待されます。

県民の関心の高いテーマなので、研究成果を迅速に、わかりやすい形で県民に提供することも重要と思われます。
- 中国からの飛来により、PM2.5 の測定と成分分析に対する必要度は高くなっている。正確な測定と分析のためには、広域での連携が不可欠である。想定される飛来ルートを踏まえ、西日本の自治体などとの連携体制を構築することが求められる。

県民に対しても、測定や分析の結果を積極的に公開することが望ましい。すでに行っているインターネットによる公開も、県民の認知度が高いとは思われないことから、市町村自治体のホームページとリンクさせるなど、関心を持っている人々がアクセスしやすくなるよう改善すること

が必要である。

- PM2.5が、再び注目を集めている。中国大陸からの飛来という国際的広域的汚染が懸念されての所以からである。現在は、シュミレーションによる計算のコンタによる報道が、繰返し視覚に入ってくるが、神奈川県の研究機関としての検証が必要と考える。従来の黄砂の時期ではなく、もう少し早い時期、つまり、今月、あるいは、2014年1月にフィルター法による1日値の継続した採取、分析を行うことが求められているのではないであろうか。指標成分の特定と影響評価を行う計画を、組み込む視点も必要となろう。

PM2.5の常時監視の精度検証の準備も肝要と考える。等価の幅をメーカー由来でなく、地域特性の反映もあろうことも考慮して、本センターが可能な時期に行っておくのも意味あることと言えよう。

(数値的評価)

★評価者6名

〈評価の内容〉	〈評価項目〉	〈ランク〉					
課題設定の妥当性	○背景と必要性	5 (6人)	4 (0人)	3 (0人)	2 (0人)	1 (0人)	
	○優先性	5 (5人)	4 (1人)	3 (0人)	2 (0人)	1 (0人)	
計画の立案と実施方法	○研究内容	5 (2人)	4 (4人)	3 (0人)	2 (0人)	1 (0人)	
	○計画の妥当性	5 (1人)	4 (4人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)	
研究の進捗状況	○進捗状況	5 (0人)	4 (4人)	3 (2人)	2 (0人)	1 (0人)	

※ランクは、5点満点の評価で5 (優) ~ 1 (劣)